HERO は鬼凧、蘇る島
「壱岐鬼凧は島の守り神」

はじめに

連続テレビ小説「舞いあがれ!」で主人公・舞が空を飛ぶ夢を抱くきっかけになった、長崎県・五島のばらもん凧は記憶に新しい。

ある、早春の圃場で田んぼをトラクッターに乗って田植えの準備をしていたら一枚の大きな鬼凧がふわり、ふわりと糸が切れて舞い降りてきた。

驚くことに骨組みも凧絵も原型をそのままにして、田んぼの中央で無事着陸に成功、凛として回収を待っていた。

実は壱岐にも空から見守る伝統の凧がある。
地域の人は鬼凧(おんだこ)と呼び、その昔 5 万もの鬼が住んでいたという伝説伝わる壱岐の島に悪行を繰り返す鬼を退治しようとやってきた武者の百合若大臣の戦いをモチーフにしたと語り継がれている。
これぞまさに、HERO 壱岐鬼凧の登場である。

それは、壱岐の島の旧家には、今でもこの鬼凧が家の天井付近に飾られ、家内安全、五穀豊穣としてまつられていた。

壱岐の島には、年間を通して風の吹く日、観光名所の左京鼻や原の辻遺跡の公園跡地付近に、壱岐市内の何処からともなく凧をもって集まって来ては凧を揚げる鬼凧の愛好者を度々見かけることがある。

高齢の方が殆どで平均年齢はすでに 70 歳を超えて、すべて自作で制作し凧の背中に取り付けられた弓からは想像もつかないほどの音色を響かせ一挙に数十枚が大空に舞い上がって行く様は圧巻だ。

テレビのチャンネルをひねると、「YOUは何しに日本へ」、「夢応援します」の番組をよく目にする機会が増えた。近年は、面白ければ、楽しければ、美味しければ、世界中からそこには人が集まってくる。

そこで、地域住民と参加型のまちづくりや、島の景観や観光としての地域づくりに繋がって行くことをコンセプトにして、壱岐島の活性化につなげたいと考えた。

風化によって作られた観光名所は風化によっていつかは消えていく、しかし鬼凧という、島の伝統文化は消えない。

この島に眠っている財産と魅力を生かしつつ全国に発信していく挑戦こそが島の新しい未来を拓くかもしれない。

長崎県壱岐の島は九州本土と朝鮮半島との間にある玄界灘に浮かぶ島で対馬島とともに古代より重要な役割を果たしてきた。島は人口約 24，500 人・世帯数約 11，500、壱岐本島と 21 の属島で構成され南北約 17km、東西約 15km、総面積は 138 平方メートルの規模で全国 20 番目の大きさとなっている。

壱岐市は多くの歴史遺産や自然遺産を有効に利用し国内外交流が盛んな島を掲げ『海と緑歴史を生かす癒しの島壱岐』を目指している。

壱岐の地形は島全体に標高 100m前後の山が広がり最高の岳の辻でも標高 213m となだらかな地形で、 島の南東側に長崎県で2番目に広い平野・深江田原が広がっており、長崎県を代表する穀倉地帯となっている。

壱岐島に行くには、博多ふ頭から高速船で 65 分、フエリーで 2 時間 10 分、長崎空港から 30 分ととても便利な離島壱岐になった。

壱岐市は、平成 5 年長崎県の伝統的工芸品にも指定され、中でも壱岐伝統の絵凧は、竹と和紙で制作され頭部の弓に紐が張ってあり地域の人は『しゃびせん』と呼び揚げると独自のうなり音がする。

怖そうな鬼凧からは想像もつかないほど、鬼凧は壱岐の人にとってお守りのような存在となっている。

そして、現在でも鬼凧のレリーフは壱岐市のいたるところにも多少ある。

例えば、壱岐市の観光バスや、マンホールの蓋、壱岐の民芸品店、壱岐のお菓子の包装用紙のラッピングとなって静かに呼吸している。

そこでこの度、壱岐の鬼凧という島に残っている文化や歴史をきれいに掘り起こしまちづくりにつなげるのも一手だと考えた。

それは数年前、私の公民館に鬼凧作りに名人と呼ばれる人達によって鬼凧作り教室が開催され、凧の骨組、紙はり、絵付け、凧の揚げ方の講習を受け、公民館の花散らしには数十枚の鬼凧が空を飛んだ。
これを後世い残したいと、地域の伝統を守り、これには年齢を問わず、絵付け教室も開催され参加しやすいものとなって行くことだろう。

これを少し分類するならば、

作る鬼凧から、飛ばす鬼凧へそして観る鬼凧へと進化させて行く事をコンセプトとしたい。

1，統廃合になった学校を復活させ地域挙げての鬼凧作り教室の開催

2，飛ぶ鬼凧を使った観光客への集客

3，壱岐の島鬼凧の壁画アート

① 例えば、統廃合になった、学校の真新しい教室の再利用として教室や、体育館、運動場、学校という大きな空間を有効活用して鬼凧つくり教室を開催して、地域のよりどころを創っていく。

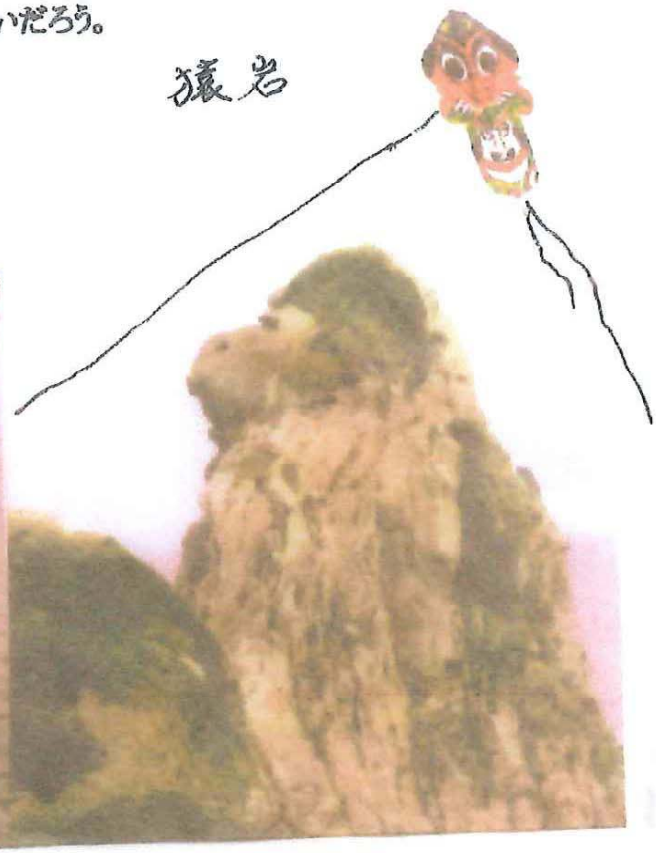
また、遊んでいる校舎の各階の教室にはセアハウスをとして利用、国内外の関係機関や大学と提携して、芸術者や、美術学生を呼び込みアートな作品を毎年少しずつ制作していく。

統廃合になった中学校

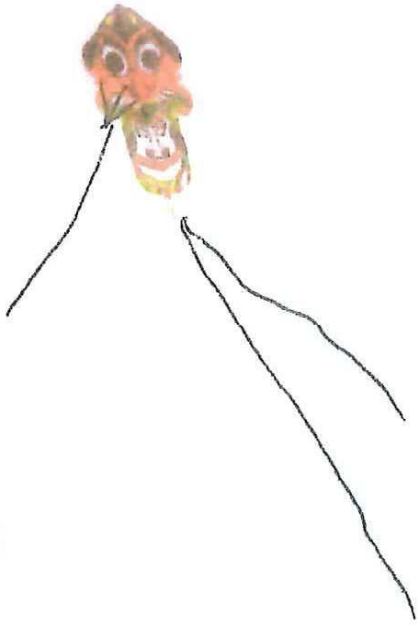
② 壱岐の有名な観光名所から凧を揚げ観光客の集客も狙う。
壱岐市の観光名所である小島神社や、猿岩や左京鼻からの鬼凧あげを企画する。
壱岐の島はどこに行っても、水平線からのパノマラは最高である。
ここで問題は風だ、風の吹かない日は、ドローンを使って吊り上げ観光スポットを創る。
写真には、鬼凧の背中に付けたしゃびせんの音は取り込めないが、最高のロケーションが創られ最高の記念写真となることは間違いないだろう。

小島神社

猿岩



左京鼻



唐岐振興局

唐岐市役所

郷ノ浦大型フェリー岸壁

鬼凧が見守る宣伝広告塔になってもらい、壱岐をアピールするために建物の支障のないスペ-ス壁画に鬼凧を描いていく。

1、壱岐市にある、国や県の出先機関建物や市役所の壁面の支障のない空間に鬼凧を描く。

(ラッピングや、垂れ幕シートの鬼凧にすれば、かなりの風雨に堪えうる)

2, 統廃合となったとなった廃校の壁面に鬼凧を描き校舎を蘇らせていく。

(国内外から美術学生を呼んで壁画コンテストを開催する)。

3, 壱岐市のフエリー発着所ビルの壁面に鬼凧を描く。

大型観光船の広すぎる専用岸壁には巨大な鬼凧を描き国内外からのウエルカムを狙う

4, 壱岐市を走る観光バス、長距離トラックの車体全体にラッピングする。

5, 町の商店街のシャッター通りにもかわいい鬼凧アートにすれば歩くだけでも楽しいシャター通りになる。

壱岐島の様々な場所で鬼凧と出会える、夢も膨らむ

終わりに

最近、地域を変えてくれるものは、若者、よそ者、馬鹿者と言いう言葉をよく、耳にする。

数年前から、壱岐市にもまちづくり協議会が設立され、更には地域協力隊も配属され島の地域づくりに大きく貢献してくれている。

しかし、国内では、地域との手軽さや・出会いや・後ろからのずれと、行政からの地方炎上【すれ違い】も事実のようである。

新しいものを取り入れていくことは、とても面白いが継続は難しい。
忘れられていく、歴史や伝統や文化がきっと化学反応を起こして変えてくれることを期待して、今はそこにあるものをゆっくり育てたいと思う。

たかが鬼凧、されど鬼凧、『風が吹かなければ皆で風を起こせば良い。」
パフォーマンス性は低いが、きっと後世に残していけるまちづくりになってくれることを期待したい。

HERO 壱岐の鬼凧は、想像を超えたまちづくりを応援しているに違いない。

そして、仕上げに絵師は様々な祈り込め、そっと凧に入魂の目玉を入れた。